

## 【京都府知事賞】

ハーフ？ダブル？本当の私は？

京都市立春日丘中学校 3年 中山ルーナ

日本人の父とフィリピン人の母をもつ私は、半分を意味する「ハーフ」なのか、2つを意味する「ダブル」なのか。少し前まで、自分を中途半端な存在と感じ、私は「ハーフ」と名乗っていました。

私は4年前、日本に生まれました。日本語や日本の習慣が分からず、知らない世界に1人ぼつんと放り出されたような気がしました。クラスの人に自分の気持ちを伝えられず、どう接すればいいか悩み、みんなを避ける毎日。フィリピンでは友達が多かった私は自信を失ってしまいました。周りの会話が理解できず、全てが私を悪く言っているよう聞こえました。

しかし、それは大間違いでした。本当は、みんなは私を支えてくれていました。来日から半年経った頃宿泊学習があり、1週間班の人と共に行動しました。みんなは、絵やジェスチャー、簡単な日本語で私と必死に会話してくれました。一緒に笑い、一緒に考え活動するうち、今まで見えなかったものが見えてきました。授業中、私が理解できるまで説明してくれる人、日本語や教科を熱心に指導してくださる先生方、みんなは私をからかったり、怒ったりしているわけではなかったのです。それに気づき、「みんなと深くコミュニケーションをとりたい」と、私は日本語の勉強や学習に励みました。

中学に入り吹奏楽部で打楽器を担当しています。去年のコンクール前、急きょ打楽器担当になった人たちのため、私は演奏方法を考え指導しました。いい賞はとれなかったけど、やれることはやったと思いました。その後、部員の投票で部長に選ばれ、自分の努力が認められた喜びと、ハーフの私に部員が付いてくるのかという不安が入り混じりました。そして今年、部員の意見対立からコンクール出場が危うくなり、私が部長でいいのかと悩む一方、自分にできることをやるしかない話し合いを重ねました。和解しみんなで舞台上に立てた時「こんな私だけ役目が果たせた。」と喜びが込み上げてきました。

私の学校にはフィリピンルーツの生徒がいて、一緒に日本語教室で学んでいます。そんな仲間や生徒会と取り組んだフィリピン台風復興支援募金は、私の意識を変えました。私たち日本語教室は、被害状況や国の現状・思いを全校生徒に伝えました。初めは、中学生の私には何もできないと思っていました。また、皆がフィリピンのために協力してくれるのが不安でした。校内募金では吹雪の中、たくさんの方が募金をしてくれました。校外募金では、私たちのチラシを読んで募金をしてくださる方、私たちの声を聞きつけて来られた方、私が英語で説明すると、外国人観光客の方も協力してくださいました。そして、フィリピンからのお礼のメッセージ。日本の人とも、フィリピンの人とも、他の国の人とも繋がることができました。

留学生と交流した時、私は自然と英語が出てきて、通じるものを感じました。「いい笑顔。」先生や友達に言われて気づきました。「これがダブルの良さ。」確かに私は言葉だけでなく、生活習慣や感覚の違いなど、日本とフィリピンの両方を自然に受けとめることができます。様々な人との関わりから、「本当の私はダブルなんだ。」と気づくことができました。

私は今、日本とフィリピン両国のことを深く学びたいと思っています。まずは、錆びてきたフィリピン語の力を磨き直したいと思っています。そして将来、3カ国語を活かし、日本とフィリピン、他の国にも関わる仕事をし、「私は日本とフィリピンのダブルです。」と胸を張って言いたいと思います。